

千葉工業株式会社は、その設立にあたって発行可能株式総数 100 株のうち 25 株を 1 株当たり ¥6,000 で発行することとし、全株について引受け・払込みを受け、払込金については当座預金に入金した。ただし、資本金は会社法で認められている最低限度額を計上することにした。なお、会社設立のため発起人は株式発行に係わる諸費用 ¥5,000 を立て替えて支払っていたことが判明したので、現金で精算した。

商簿 新傾向① 問題

A

かねて本店が日本橋商会から掛けて仕入れた商品の代金 ¥7,000 について、本日、東京支店に日本橋商会の店員が集金に来たので、東京支店は本店に代わってこれを全額小切手を振り出して支払った。なお、当社は本店の他に複数の支店を全国に展開しており支店独立会計制度を導入しているが、本店側の仕訳は答えなくてよい。

商簿 新傾向② 問題

A

当社の直近 3 か月の売上状況を精査した結果、一定額以上の商品を購入した神奈川商店と静岡商店に対し、それぞれ ¥4,000 の売上割戻を実施する要件を満たしていることが判明した。そのため、神奈川商店については現金で支払い、静岡商店については同店に対する売掛金から相殺した。ただし、静岡商店に関しては、前期末に売上割戻引当金を ¥500 計上している。

商簿 新傾向③ 問題

A

当座預金	150,000	資本金	75,000 ^①
創立費	5,000	資本準備金	75,000 ^②
		現金	5,000

①会社法の規定による最低額：払込金額の2分の1

→ $¥150,000$ (払込金額) $\times \frac{1}{2} = ¥75,000$

②資本金に計上しなかった額 $¥75,000$

→ 「資本準備金(または株式払込剰余金)」(純資産)

CHECK!

★株式発行時の資本金の最低額 → 払込金額の2分の1
(原則は、払込金額の全額)

A

商簿 新傾向① 解答

本店	7,000 ^①	当座預金	7,000
----	--------------------	------	-------

①本店に代わって支払った → 本店に対する債権の増加
(債務の減少)

→ 「本店」を借方に仕訳

CHECK!

★本店に対する債権の増加 → 「本店」を借方に仕訳

★本店に対する債務の増加 → 「本店」を貸方に仕訳

A

商簿 新傾向② 解答

売上割戻	7,500 ^①	現金	4,000
売上割戻引当金	500	売掛金	4,000

① $¥8,000$ (割戻総額) $- ¥500$ (引当金) $= ¥7,500$

CHECK!

★売上割戻を行った場合、まず売上割戻引当金を充当し、
残額を「売上割戻」として計上する。

A

商簿 新傾向③ 解答



埼玉物産株式会社が発行した社債（額面総額： $\text{¥}100,000$ 、期間：5年、利率：年1.825%、利払日：毎年3月および9月末日）を4月30日に額面@ $\text{¥}100$ につき $\text{¥}99$ で取得した。代金は端数利息とともに当座預金から証券会社の指定する口座に振り込んだ。当社は、この社債を満期日に償還されるまで保有する予定である。なお、端数利息は1年を365日とする日割計算によることとするが、購入の当日を含めて求めること。

商簿 新傾向④ 問題

A



株式会社常盤運輸は、決算にあたり保有している大型トラックの減価償却を生産高比例法にて行った。記帳は間接法によること。当該トラックの取得原価は $\text{¥}30,000$ 、残存価額は取得原価の10%、総走行可能距離は40,000km、当期の走行距離は8,000kmであった。

商簿 新傾向⑤ 問題

A

満期保有目的債券	99,000 ^①	当座預金	99,150
有価証券利息	150 ^②		



①満期日に償還されるまで保有する予定→「満期保有目的債券」

$$\rightarrow ¥100,000 \times ¥99 \div ¥100 = ¥99,000$$

$$\text{②端数利息: } ¥100,000 \times 1.825\% \times \frac{30 \text{ 日}}{365 \text{ 日}} = ¥150$$

CHECK !

★端数利息の日割計算(直近の利払い日の翌日から売買日までの経過日数で計算)

$$\rightarrow \text{社債の額面全額} \times \text{年利率} \times \frac{\text{経過日数}}{365 \text{ 日}}$$

A

商簿 新傾向④ 解答

減価償却費	5,400 ^①	車両減価償却累計額	5,400
-------	--------------------	-----------	-------



$$\text{①} ¥30,000 \times 0.9 \times \frac{8,000 \text{ km}}{40,000 \text{ km}} = ¥5,400$$

CHECK !

★生産高比例法による減価償却費

$$\rightarrow (\text{取得原価} - \text{残存価額}) \times \frac{\text{当期の利用量}}{\text{総利用可能量}}$$

A

商簿 新傾向⑤ 解答